

巻頭言

図書室で新着雑誌を手に取り眺める時間は、数学者としてのささやかな楽しみを感じる一瞬でもありますが、海外の大学では雑誌は数学教室から遠く離れた中央図書館に入っているだけというものが多く、わざわざ図書館に出向くよりも、インターネットを通して研究室からコンピュータ上に論文を映し出して眺める方がはるかに便利だと思われた方が多いと思います。このように、雑誌の購読では、冊子体と電子体にそれぞれの長所と短所があるのですが、インターネットの普及で、電子体の利用が欠かせなくなってきました。

日本数学会が現在出版している公式誌は、Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) および Japanese Journal of Mathematics (JJM) の2誌で、電子体については、JMSJ, JJM は、それぞれ Project Euclid, Springer のプラットフォームから発信しています。実は日本発の雑誌は、現在戦国時代の様相を示しており、2010年には、JMSJ および

Hiroshima Mathematical Journal, Hokkaido Mathematical Journal,
Kodai Mathematical Journal, Kyoto Journal of Mathematics,
Nagoya Mathematical Journal, Nihonkai Mathematical Journal,
Osaka Journal of Mathematics, Tohoku Mathematical Journal,
Tokyo Journal of Mathematics, Tsukuba Journal of Mathematics,
Proceedings of the Japan Academy, Series A, Mathematical Sciences

の計12誌が Project Euclid のプラットフォームから電子体を発信することになっています。また、同じく2010年にはJJMの他に Japan Journal of Industrial and Applied Mathematics が Springer のプラットフォームを用い、一方 Funkcialaj Ekvacioj は J-STAGE や自身のホームページから、Kyushu Journal of Mathematics は J-STAGE のプラットフォームから、さらに Publication of the Research Institute for Mathematical Sciences は European Mathematical Society Publishing House (EMS PH) のプラット

ホームから、電子体を発信する予定です。こうした数学誌の電子化の流れはこの数年で急速に進み、各雑誌は生き残りに必死です。

ここでは、小生が現在編集の仕事をしております **JMSJ** についてお話しします。 **JMSJ** の編集委員長は現在2名体制で、宮岡洋一氏と小生が編集長を勤めております。我々は他の15名の編集委員とともに編集作業を行っていますが、小林俊行、谷島賢二の両編集長時代以来の、冊子体発行を重視する伝統を大切にするとともに、昨年度 HP（ホームページ）の見直しを行い、装いを新たにしました。 **JMSJ** の現在の HP は **J-STAGE** や **Project Euclid** などのプラットホームへのリンクのみならず、その他にも次号に出版する予定の論文の目次や、掲載決定された論文の著者最終版をすべて公開しております。また、機関レポジトリを含む電子体のエンバーゴ（公開猶予）期間を、出版後5年から出版後3年に短縮しました。 **JMSJ** は日本数学会員から会費をいただきサポートしてもらって発行しておりますので、エンバーゴ期間を零にすることは出来ませんが、少しでもオープンアクセスに近づけたいということで短縮いたしました。

また、最近の **JMSJ** の編集委員会で決まったことですが、毎年 **JMSJ** から出版された論文の中から最優秀と思われる1本ないし3本の論文を編集委員会で決定し **JMSJ** 論文賞（仮称）を贈ろうということになりました。これは、理事会でも承認され、できることなら今年から始めたいと思っております。

満渕俊樹（大阪大学大学院理学研究科）